

今日は、『般若心経』の一説、「無苦集滅道」についてお話をいたします。

言葉で理解することとそれを思いのままに行えることとの間には、大きな違いがあるものです。

例えば、裁縫さいほうについて考えてみます。馴れないうちに実際に自分でお裁縫をやってみようと思うと、最初の針の穴に糸を通すところから一苦労してしまいます。裁縫についてのことは言葉では理解できているはずですが、針も糸も確かに目の前にあり、そこに糸を通すだけのことと理解しているにもかかわらず、実際に自分でやってみると、糸を通すことすらままなりません。

私たちは、たくさんの「ま・ま・な・ら・な・い」ことやものに囲まれて生活をしているのです。思い通りにならないこと、それを仏教では「苦」と呼びます。

その「苦」を明らかに知り、原因を探り、その原因を滅くするために、仏教の教えに従った正しい道を歩んでいくこと。これを仏教で「苦集滅道くしゅうめつどう」、そしてその教えを、「四聖諦しじょうたい」（お釈迦さまが説かれた四つの聖なる真理）といいます。

この「四聖諦」は、私たちの日常からかけ離れたものではありません。私たちが生きるあらゆる場面において、ま・ま・な・ら・な・さまなに向けた正しい解決の道です。

しかし、針に糸を通すことすらなかなか思い通りにならないことを考えると、生き方そのものにおいて、正しい行いを実践することは、とても困難なことに思われます。

『般若心経』の中で観音かんのんさまは、正しく実践し尽くすことにより、さとりに至ることができれば、それはもはやその道すらこだわりを持つべきものではない、という意味を込めて、この四聖諦の前に「無む」という言葉をつけて「無苦集滅道」と示されるのです。「無」という言葉をつけることにより、“こだわりを離れなさい”と示しているのです。

たくさんのま・ま・な・ら・な・さや思い通りにならない中で生きる私たちですが、こだわりを離れることにより、正しい道が開けてくるのではないのでしょうか？

私たちも、観音さまの示された道しるべを頼りに、正しい行いをし、日々の生活を改めて積み重ねていきたいものです。